

平成二十七年 度 作 品

魔法のスパイス

作 作
曲 曲
ム・ニヨ
銀 狼

自分の名前（

役の名前（

）

魔法のスパイス

一、コンセプ

シェフをめざす少年たちの成長の物語

二、登場人物

・ シェフをめざす若者	4人
・ ムース、バンナ、ガレット、ビスコ	
・ イタリア料理店の店員	4人
・ バンデビス、ブラウニー、バレット	クランプル
・ ショコラ（ダブル）	2人
・ シフォン（ダブル）	2人
・ パルマ（ダブル）	2人
・ 魔法使いの婆ちゃんズ（ダブル）	10人
・ スウィート、ホット、サワー、ビター、ソルティ	
・ 野菜売り（ベジタ、ブル）	2人
・ 魚売り（シー、フード）	2人
・ 肉売り（ポット、ホルダー）	2人
・ スパイ売り（ターム、リック）	2人
・ パン屋（ペーク、イースト）	2人
・ チーズ売り（ゴルゴン、ゾーラ）	2人
・ マダム（魔法使い・サラ）	1人
・ レストラン社員（アット、イット、ウット）	3人
・ 街の人	5人
・ ティム、ジョン、ソフィア、エイミー	レア
・ コンテスト係（ロジャー、キース、ルーク）	3人
・ 審査委員長（ジャッジ）・ナレーター	1人
合計	49人

「あらすじ」

シェフをめざして、街に若者がやって来ます。それぞれ店に入りますが、ショコラの行く予定だった店はつぶれていました。

困っているときに、婆ちゃんズ（魔法女達）が現れて、ある条件を付けて、屋台を提供します。店は魔法がくれた魔法のスパイスで評判になり、料理コンテストに出ることを勧められます。

その時、その魔法のスパイスを気にかけたある料理店の主が、そのスパイスを盗ませます。ところが、ショコラは、よい機会だと、市場の若者と一緒に自分のスパイスを作り始めます。

コンテストには残念ながら入賞できませんでしたが、自分で道を切り開いていくことに自信を持って前進しようとしています。

第一場

舞台後ろと合唱隊の前には、イタリア風の市場の屋台が出ている。レストランの店員と店の若者、街の人がざわざわと話をしている。そこに若者達が上手から出てくる。

ナレーター

ここは、イタリアのある街の市場です。近くにはレストランやしゃれたインテリアショップなどあり、いつもにぎやかです。いま、この広場にレストランへ修業に来た若者が現れました。

若・ムース

若・バンナ

若・ガレット

若・ビスコ

若・全員

若・バンナ

若・ガレット

若・ビスコ

若・全員

わあ、これが市場かあ。
にぎやかだなあ。
これから毎日ここに来るんだろうなあ。楽しみだなあ。
でも、料理の修行は厳しいんだろうなあ。

そんなの当然さあ。

でも、おいしい料理が作れるようになるんだよ。

みんなに喜んでもらえる料理を作れるようになるんだ。

そうだね、頑張らなくっちゃ。

おーっ。

5人が歌い出し、途中から店員達、物売りの息子達が歌い、踊る。物売りの主人達と街の人は、手近の物を使い、リズムを刻む。

♪「一人前になるぞ」

さあ踏み出すぞ 新しい世界へ

自分の夢を始めていく

まずは店の掃除から

隅から隅までぴかぴかに

それから洗濯 皿洗い

包丁持つのはいつのこと

それでも心を強く持ち

シェフへの道を進んでいく

熱い調理場だって 冷たい水だって

日の出前から起き出して
星が寝るまで仕事する
一人前になるために
一人前になるために
さあ踏み出すぞ 新しい世界へ
一人前になるために
さあ踏み出すぞ 新しい世界へ

歌い終わったら店員達と若者達が向かい合う。市場の人達は合唱隊の前に下りる。

店バンデビス	やあ、君達。ここにいるのは、未来のシェフ達かな？
若者全	はいっ、そうです。あっ、いえっ、修業に来ました。
店バンデビス	じゃあ、トラットリアナポリに修行に来た若者はいるかな？
若・ムース	はい、ぼくです。ムースです。よろしくお願いします。
店バンデビス	やあ今日は。ぼくはバンデビスだ。
店ブラウニー	リストランテミラノに来た子は？
若・バンナ	はい、私バンナです。よろしくお願いします。
店ブラウニー	ブラウニーだ。
店パレット	カフェジェノバに来た人は？
若・ガレット	はい、ここにいます。ガレットと言います。よろしくお願いします。
店員パレット	おっ、ぼくはパレット。ガレット・パレットでコンビが組めそうだ。
若・ガレット	(うれしそうに) はい。
店克蘭ブル	カフェフィレンチエに来たのは君かな。
ショコラ	いえ、ぼくではありません。
若・ビスコ	はいはいはい、ぼくです。ビスコです。よろしくお願いします。
店克蘭ブル	えらくにぎやかな子だなあ。克蘭ブルだ。こちらこそよろしく。
店バンデビス	よし、行こうかあ。
ショコラ	あっ、あとう。ぼくのお店の方は？
店ブラウニー	うん？ ああ君はまだだったねえ。
店パレット	君はなんていう店に雇われたんだい？
ショコラ	はい、ラ・ボローニャです。
店員全	えっ、ラ・ボローニャだって？
店克蘭ブル	ラ・ボローニャはねえ・・。

その時下手からパルマとシフォンが走って出てくる。

パルマ

シヨコ

パルマ

シヨコ

店ブラウニー

シフォン

店パレット

パルマ

店員全

パルマシフォ

ン

ねえねえ、この中にシヨコはいる？

あつ、はい、私です。

遅れてごめんなさい。ちょっと事情があつて。

事情・・・ですか？

おい、パルマとシフォン大丈夫なのかい？

うん、だから説明にね。

君達も大変だけど、上手に話してやれよ。

うん、分かっている。

じゃあな、パルマ、シフォン、元気出してな。

ありがとう、みんな。

店員と若者達は、上手に入っていく。

パルマは、見送る。

シヨコ

パルマ

シヨコ

パルマ

シヨコ

シフォン

シヨコ

シフォン

シヨコ

パルマ

シヨコ

シヨコ

パルマ

シヨコ

シフォン

あのう・・・。

あつ、ごめん。説明するね。私たちは姉妹（姉弟）なの。

はい。

実は・・・、ラ・ボローニヤは今営業していないの？

えっ、営業していない？

そう、うちは小さな店で、シェフは父一人なの。その父が行方不明になってしまったの。

行方不明？

そうなの。一ヶ月前のある日、幻のハーブを探しに行くと書き置きをして突然いなくなったの。

それは何かきつかけがあつたのですか。

見慣れないおばあちゃん達が来た翌日なの。（間）ごめんね、父のことで頭がいっぱいで、君に連絡

をしなかった。ごめんなさい。

あつ、いえ、そういう事情では・・・。でも、どうしよう。

しばらくここにいらっしゃるだったら、寝る所は用意してあるからね。

あつ、ありがとうございます。ちよつと考えます。

じゃあ、これが店までの地図よ。本当にごめんなさい。

シヨコラ
パルマシフォ
ン
あつ、いや、お父さんが早く見つかるといいですね。
ありがとう。

パルマとシフォンは下手に入っていく。

シヨコラ
さあて、どうしよう。（しばらくうろうろしながら考える。市場の人達はひなだん下で心配そうに見守る。）

舞台を一往復した後

シヨコラ
あつ、そうだ。（舞台中央に張り切って出てくる。）お昼にしよう。考えても分からない時は、腹ごしらえだ。

それを聞いた市場の主人達は、店の品物を持って舞台上がってきて、矢継ぎ早に言う。

野・ベジタ
魚・シー
肉・ポット
ス・ターム
パ・ペーク
チ・ゴルゴン
へえー、こんな大変な時に腹ごしらえとは、肝が座っているねえ。さあ、このオレンジを食べな。
このアンチヨビはうまいぞー。
それより、このハムだ。どうだい。
ちよっといい胡椒があるぞ。
上等なバケットだ、食ってくれ。
とろけるチーズで気分をまったりさせろや。

あまりの勢いに、シヨコラは、ちよっと離れた所に逃げて

シヨコラ
野・ベジタ
魚・シー
シヨコラ
肉・ポット
シヨコラ
皆さん、ありがとうございます。でもお弁当は作ってきたのです。
えーっ、どんなやつだい。ああ、サンドイッチかあ。
いいのかい、そんな物で。
はい、結構おいしいんですよ。村では評判よかったです。
そうかい、じゃあ、ゆっくり食べな。わしらもあっちでランチにするから。
はい。

市場の人達は合唱隊の前の店の位置のつく。

シヨコラは、弁当の包みを開ける。
そこへばあちゃんズのスウィートが上手から出てくる。

婆スイート

おや、お兄さん、いい物を食べているねえ。

シヨコラ

やあ、おばあさん今日は。お昼はまだですか？

婆スイート

ああそうなのさ、この頃は景気が悪くてねえ、昼抜きさ。

シヨコラ

もしよかったら、このサンドウィッチを召し上がりませんか。

婆スイート

はい、どうぞ。たくさん作ってきましたから。

婆スイート

ありがとうよ。（上手に向かって）おい、みんな。優しいお兄さんが昼飯をくれるってさ。

上手から婆ちゃんズが返事をする。

婆ちゃんズ

はいよー。

上手から婆ちゃんズが出てくる。

婆全

われら5人揃って、婆ちゃんズ。

婆サット

兄さん、すまないねえ。

婆サット

ありや、きれいにできているねえ。

婆ソルティ

（一切れつまみ上げてから）うまそうな香りがするねえ。

シヨコラ

あれ、おまえさんの分がなくなってしまうよ。

婆サット

ああ、大丈夫です。実はあまり食欲がないので。

婆サット

あれま、かわいそうに。じゃあ、いただきます。

みんな、おいしそうに食べてから顔を見合わせる。

婆ソルティ

ねえ、みんな、これは・・。

婆スイート

うん、いいねえ。これは本物だよ。（みんなうなづく）

婆ちゃんズ

うん。